常福院薬師堂（田子薬師堂）

常福院薬師堂（田子薬師堂）

明治三七年二月　国重要文化財指定
所在地　新鶴村大字新屋敷字山王塚甲九九
管理者　新屋敷部落（常福院）

この薬師堂は、建久八（一一九七）年、田子十兵衛道宥法印の開山と伝えられ、医王山薬師寺と称した。風土記には「モトハ此所ヨリ五町余リ東北ニアリ」と見え、中島村（新屋敷の旧地）であったと思われる。

修復の際に宝形造りとなったものと思われ、資料には「皆宝形造リ」と記されている。

鎌倉時代の建造で唐様式、作は飛騨の内匠との伝承がある。もとは低湿地の中島村にあったと言うが、建久の頃、水害のない扇状地周縁の丘地に移ったようである。

大和国城上郡長谷村長谷寺の末寺である。

現在の堂は、昭和二九年八月より文部省直轄工事として解体修理され、同三一年三月に落成した。解体の時破風が発見され、古くは入母屋造りであったことが確認されたので、屋根の宝形造りを改めて入母屋造りに復し、外部の内法長押は撤去、側廻り柱間装置を整え、屋根先は一メートル出して飛担軒を復旧、軒廻り支柱を撤去して廻縁を整え四方開きとし、屋根は銅板葺（柿葺型）とした。何れもよく唐様建築の特色を現わしている。特に垂木の要は楔一本で止めてある珍しい建造物である。